

令和6年松本市議会第1回臨時会
市長提案説明

[6.4.12(金) 10:00]

本日、令和6年松本市議会第1回臨時会を招集しましたところ、議員の皆様には、揃って出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

提出議案の説明に先立ちまして、2期目の市政運営に当たって所信の一端を申し上げます。

先月17日に行われた松本市長選挙におきまして、再び松本市長の重責を担わせていただくこととなりました。市民の皆さんの負託を真摯に受け止めて、これからの4年間、全身全霊で市政運営に当たってまいります。コロナを乗り越え、デフレのトンネルを抜け出そうとしている今、今日よりもっとよい明日のために、議会の皆さん、市民の皆さんの共感と納得を得て、三ガク都のシンカに邁進してまいります。

国立社会保障・人口問題研究所が昨年末に発表した地域別将来推計人口によりますと、2050年の総人口は、東京都を除いて全ての道府県において2020年を下回り、東京一極集中は継続する。その一方で、半数以上の道府県において、県庁所在地など地域経済の中心都市の人口割合、人口集中度は、東京圏の人口集中度よりも大きく上昇すると予測されています。いわゆる「多極集住」の進展です。

東京一極集中が進む中でも、コロナ禍を経て生まれた東京圏から信州・松本への人の流れは定着しつつあります。地域経済の中心地である松本市が、周辺の地域から女性や若者を惹きつける都市になることで、松本市の人口定常化を実現し、ひいては持続可能な松本平、長野県の実現に寄与していきたいと考えています。

「多極集住」は、松本市が国土計画の中で実現すると同時に、中心市街地、近郊郊外部、山間部などそれぞれが人を惹きつける地域資源を持つ松本市の中においても実現を目指していかねばなりません。人口、歴史、地理的条件を異にする各地区は、多様で複雑な課題を抱えています。松本市に「多極集住」が成り立つ地域をできるだけ多くつくっていくには、市役所がそれぞれの実情や特性を踏まえてきめ細やかに支援を行っていくことが必要です。地域の課題解決に向けて適切な伴走や支援ができる市役所になること。それが、女性や若者、外か

ら移り住んできた人たちにとって暮らしやすく、風通しのよい地域につながり、幅広い世代の人たちが地域づくりに参加する意欲を持つようになっていくと考えます。この好循環を生み出せるように、地域拠点の強化、地域づくりセンターの拡充強化に取り組んでまいります。

いま松本市は、国内外からの大勢の来訪者で賑わっています。

ジェット化から30年の節目を迎える信州まつもと空港の昨年度の利用者数も、およそ26万人で、開港以来2番目にのびりました。

とりわけ外国人旅行者については、コロナの終息と円安を追い風に、急増しています。松本城の入場者数は昨年5月以降、毎月コロナ前を上回り、昨年度は16万1,884人の外国人の方が訪れ、過去最高となりました。2023年の市内の外国人宿泊者数も過去最高の延べ23万2,780人を記録しました。

この夏には3年ぶりの信州まつもと大歌舞伎と、2月に亡くなった小澤征爾総監督を追悼するセイジ・オザワ松本フェスティバル2024が開催される予定です。文化・芸術を楽しむ「楽都」にふさわしい賑わいを、松本市の内外から訪れる大勢の皆さんで創り出していくことを期待しています。

更に今年は、海外姉妹都市であるネパールのカトマンズ市、アメリカのソルトレイクシティから、2人の若い市長が松本を訪れる予定です。松本市の子どもたちや青少年が、文化や習慣の違いを肌で感じ、豊かな国際感覚を身につけるきっかけとなる、実のある交流が実現するよう準備してまいります。

松本市は、2024年を「国際文化観光都市」元年と位置付け、子どもが主人公のまち、女性と若者に選ばれるまち、更には外国から訪れた人たちが楽しめるまちを目指していきます。

そして、老いも若きも一人ひとりが豊かさと幸せを実感できるまちを目指し、三ガク都をシンカさせてまいります。

それでは、ただいま上程された議案について、ご説明申しあげます。

提案した議案は、財産1件のほか、報告案件として、緊急を要し、専決処分した条例2件の、合計3件であります。

財産は、松本城南・西外堀復元事業用地の取得、1件を提出しています。

また、緊急を要し、地方自治法第179条の規定により、3月29

日付けで専決処分をした、市税条例等の改正、並びに国民健康保険税条例の改正、計2件を報告しています。

そのほか、議案以外のものとして、市長の専決処分事項の指定にかかわる報告、1件を報告しています。

以上、本日提案しました議案等について説明申しあげました。ご審議のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

(以 上)